

## 情報文化学科長 高橋正樹

## 友達の輪を広げよう

「世界がキャンパス」という言葉とともに始めた派遣留学制度ですが、今年は合わせて過去最高の72人の学生が、ロシア、中国、韓国、アメリカ、カナダに旅立っています。

第1に友達をたくさんつくってきてください。せっかく海外に留学するので、できるだけ多くの人たちと話し、交流を深めてきてください。そうすると、帰国後もこの国や地域のことに心が向き、そこからの視点や発想をもち、考えや行動がより幅と奥行きの深いものになるでしょう。世界に友達の輪をつくってきて、みなさんが世界平和の礎となってください。

そして、第2に、友達をたくさんつくってくるためにも、他者に対する配慮や思いやりをもって行動をしてください。互いに敬意をもって接することが理解を深め、信頼関係を構築するためには不可欠です。かたちから入るとすれば「挨拶をする」「日本人だけで群れない」「ドアを譲る」などですか。向こうから話しかけてくるような雰囲気をつくるということですね。そのためにも、日常生活とは違った少し気取った気分が必要かもしれません。

派遣留学  
夏期セミナー過去最多  
72人が5カ国へ

カナダで



アメリカで

## 事前に現地の街を検索

## 情報システム学科長 高木義和

インターネットで情報を探するのは日本からでも現地でも同じ結果が得られるはずですが、出発までに大学の情報機器を活用してなるべく多くの情報をぜひ集めておいてください。きっと現地の行動範囲が広がると思います。

まずGoogleを使った地図検索で滞在予定地域の地理情報をチェックして、主な道路など街の概要を把握しておけば、到着してすぐに街中を歩けます。次に、Google Earthで街を航空写真で見、街全体を大きく把握してください。家や建物が1軒ずつ区別できるので、滞在する場所の実感が伝わってきます。最新のバージョン4では多くのポイントの写真を見ることもできるので、到着する前から街のイメージが理解できます。

さらに、自分と同じような興味を持つ人が集まっている現地のクラブ、団体、協会などを探してメールで連絡をしてみると、到着後に現地で自分と同じ趣味を持つ人と現地の言葉で交流できる機会が生まれるかもしれません。インターネットを使って日本と情報を交換するために、メッセージやSkypeの操作に慣れておくことも有用だと思います。



中国で



韓国で



ロシアで

## CONTENTS

## 2・3面

海外派遣奨学金授与式と壮行会  
激励と決意ひとこと集  
参加学生の累計表

国際交流フェアで留学の実績を披露  
国際交流インストラクターの活躍  
バルセロナ自治大から特別講師

## 4・5面

スポーツ大会を終えて  
お薦めBOOK

オープンキャンパス・NUIS-LIVE案内  
私の研究テーマ(2教諭)  
平成20年度入試日程概要一覧

## 6・7面

新潟中央キャンパスで日本情報経営学会  
教員の活動(2007年上半期)

公開セミナー・映画の中の市民社会  
「政治における嘘」をテーマに3作品

## 8面

卒業生の便り  
同窓会「みずき会」第10回記念総会  
湧源・編集後記に代えて



# 挑戦をたたえ合い、決意新た

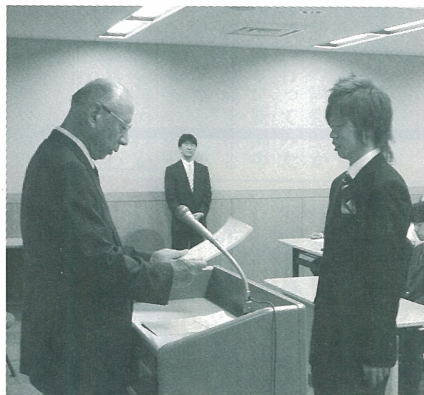
## にぎやかに壮行パーティー

史上最多の72人  
奨学金を授与  
5カ国へ8月から出発

今年度の派遣留学・海外夏期セミナーに参加する学生が過去最多の72人となり、間もなく出発する学生を激励する恒例の奨学金授与式と壮行パーティーが6月13日、みずき野本校の大会議室と国際交流センターで開かれました。今年度の派遣学生はカナダ・アルバタ大学へ9人、アメリカ・ノースウエスト・ミズーリ州立大学へ25人、ロシア・極東国立総合大学へ12人、韓国・慶熙大学へ10人、中国・北京師範大学へ16人の合計72人。8月5日から9月にかけて順次出発します。

### 派遣留学 夏期セミナー

奨学金授与式では、各担当教師から出発前に全員が紹介され、武藤輝一学長から各コースの代表に「元気で頑張って…」と証



「頑張って…」と奨学金授与

書が贈られました。また学長は「史上最多の72人というたくさんの留学派遣に頼もしく思っています。語学はもちろん歴史、社会事情など、多くの友と交わりそれぞれの国情も学んではいい。今年はこれとさらに感染症、法定伝染病に注意して対策を。くれぐれも健康に留意して。実りの多いことを信じています」と激励。

アメリカコースでは早速、はしか（麻疹）の予防接種などの事前の具体的な指導も行われました。壮行懇親会では、学長や両学科長、国際交流委員会などの教員や事務局関係者

### 激励と決意

### パーティーでのひと言

榎本公一・情報文化学部長

「留学をよく決断されました。その前向きな姿勢にエールを送ります。向こうの言葉で多くしゃべり、大いに文化を学び、帰りたいと思うほどに積極的に学んでください。貴重な青春の1コマとなるように。今日から体調に気をつけて無事に行って来てください」

田村孝平事務局長（乾杯）

「おめでとう。どうぞ健康に留意して、今度は元気な帰国報告を楽しみにしています」

谷川未歩子・カナダコース代表

「いつかは留学してみたいと思

と学生たちが和やかに思い思いのテーブルに。大勢の参加で活気あるパーティーとなりました。各コースの学生代表が決意を披露して、あらためてお互いに心を引き締め、初めての挑戦と大きな期待に心を弾ませてドリンクで乾杯し、激励し合っていました。



健闘を誓い合って乾杯

### ＜派遣留学・夏期セミナー参加学生の累計＞

	中国	韓国	ロシア	アメリカ	カナダ	計
平成 7年度	29	14	7	13		63
8年度	15	13	20	17		65
9年度	31					31
10年度			7	14		21
以上 海外研修計	75	27	34	44		180人
12年度	30				20	50
13年度	15	12	6	17	14	64
14年度	17	9	3	13	17	59
15年度 (中止)	4	1	11	6	22	
16年度	31	7	2	13	8	61
17年度	18	13	5	12	22	70
18年度	9	5	0	7	3	24
19年度	16	10	12	25	9	72
計	136	60	29	98	99	422人
合計	211人	87人	63人	142人	99人	602人

カ月の生活に不安はあるが、皆で協力し合って大きくなって帰りたい。夢をかなえてくれた大学、両親に感謝しています」

鴨井勇太・ロシアコース代表

「まだ1年未満の語学勉強ですが頑張っています。ロシア語の間は、美しく発音ができる人、しっかりと自習・予習してくる人、スピーチコンテストで2位になった人、分厚い辞書に挑戦している人、歴史・文化に詳しい人など一生懸命だが、そんな皆に負けないように4カ月間留学できることをうれしく思っています。現地であらば得られない多くのことを学んできたい」

葛西麻衣子・韓国コース代表

「現地ですらに語学を学び、多くのの人々と交流し、異文化に触れ、

視野を広くしたいと思っています。出発の前にその国の文化や歴史を学ぶと同時に、自分の国の文化・歴史も学び伝えてきたい。一人暮らしは初めての体験となりますが、自分を見つめ直すいい機会でもあり、一日一日を大切に生きて過ごして、たくさんの方の励みを受けていきたい」

渡辺 岳・中国コース代表

「以前家族で海外旅行したときから留学体験に素晴らしい魅力を感じ、本学に入学してそれが実現して本当にうれしい。文化や環境の違う国、未知なるものに対する期待でいっぱいです。現地でも人間関係に大きく成長して、有意義な4カ月になるようにしたい。これまで支えてくれた人々に応え、この機会をスタートにしてさらに自分を高め頑張ります」



## 国際交流フェア

今年度の「国際交流フェア」は4月16日から5月16日まで、前半はみずき野本校の国際交流センターで、4月26日からの後半は新潟中央キャンパスに会場を移して開催されました。

昨年度の派遣留学制度および海外夏期セミナーの参加学生は合計24人の少人数で、実施されなかったロシアコースについては、一昨年度参加した現4年次生が担当しました。しかし参加人数に関係なく、例年に劣らないすばらしいフェアとなりました。

各コースとも展示物の選定や作成、例年に劣らないすばらしいフェアとなりました。

## パフォーマンスで盛り上げ

### 留学の成果、中央キャンパスでも披露

成、「パフォーマンス」の準備を着々と進め、本校会場の国際交流センターには、ロシア・中国・韓国・アメリカ



短篇のパフォーマンス

リカ・カナダに留学した学生の思い出のたくさん詰まった写真集、体験レポート、現地での教科書や新聞などの品々がずらりと並び、国柄を象徴する特色ある展示となりました。各コースが日替わりで行う昼休みのパフォーマンスでは、留学の成果をビデオやスライドを使用して報告。中国コースは中国語の歌、韓国コースは留学中に習った短篇などの演奏、アメリカコースはマイクパフォーマンスで会場を盛り上げていました。

期間の後半は市中心街の新潟中央キャンパスの1階で展示を行い、より多くの皆さんに本学の留学制度の成果の一端を披露することができました。

国際交流インストラクターは世界中で起こっている戦争問題や貧困問題、不平等の問題、異文化のあり方などを県内の小中高校生に知ってもらうために、週に1回集まってワークショップの方法を勉強しています。今年度は「戦争と平和」「世界の不平等」「異文化理解」という3つの大きなテーマを元に、毎回各グループが発表をして、それについてお互いが意見交換をし合いながら私たち自身も世界の問題に目を向けています。

## 今年のテーマは「戦争と平和」「世界の不平等」「異文化理解」

### 国際交流 インストラクター

るので、小中学生にも分かりやすいワークショップを行えるような工夫を常に考えています。

私は今年初めてインストラクターとして参加しますが、国際交流やたくさんの方との出会いにとても興味があるので、

## 分かりやすいワークショップに工夫 情報文化学科4年 片野孝子

異文化理解というテーマから日本と世界のつながりを考えています。発表のための準備は大変ですが、一人ひとりがその道のプロになろうという目標を持って取り組んでいるので、いろいろ調べていく中で興味深い資料が得られたときには、大変さの中にもやりがいを感じられます。

学校をまわる前には実際に海外でワークショップやNGOを学ぶ機会もあるので、そこで見たいこと聞いたこと感じたことをありのまま学生に伝えることができたらいと思っています。そして一人でも多くの人に現在の世界の状況を考える機会を持ってもらい、いろいろなことを感じ取ってもらいたいと思っています。

## 情報文化学科のスタッフ・セミナー

### スペインのマリア・カナダスさんを迎えて

情報文化学科のスタッフ・セミナーに5月23日、スペインのバルセロナ自治大学からマリア・カナダスさんをお招きし、お話を賜りました。

マリアさんが代表を務める同大学平和文化研究所は、ヨーロッパ平和研究の中でも傑出した活動を展開しているところとして有名です。筆者がかつてノルウェーのオスロ国際平和研究所を訪れた際、平和学の泰斗であるヨハン・ガルトウング博士と偶然再会し、「現在もつとも注目すべき研究所」として紹介していたのがきっかけでした。



▲みずき野中央公園で開かれた歓迎野だての会で。中段の右から4人目がマリアさん。右から2人目が本学出身の新津厚子さん

の元スペイン代表でもあるマリアさんの影響もうかがえましたが、このような学問的最先端と地域活動とが見事に融合している姿に、未来の教育研究機関のあるべき姿を予感することができました。

会場になった国際交流センターには、本学教員のみならず、多くの学生が積極的に参加する姿が見られました。マリアさんが丁寧な英語で分かりやすく説明してくださったこともあり、学生も英語での議論に熱心に参加していました。マリアさんの報告に際しては、昨年度本学を卒業された新津厚子さんにもサポートしていただきました。

### 平和教育の最前線を紹介

#### バルセロナ自治大と初の交流

セミナーではまさに平和研究と平和教育の最前線についての報告がなされました。報告では、同研究所が、カタルーニャ政府やバルセロナ市などの行政的な支援を受けながら、広く地域社会やNGOの活動と連携し、国際紛争の監視や平和構築のための政策提言を行うのみならず、新たな平和教育や市民教育の場ともなっていることが紹介されました。世界的な人権NGO、アムネスティインターナショナル

これらしました。今後は、同研究所とも、徐々にこのような学生レベルの交流も進めていくかもしれません。

何より、本学とスペインの研究教育機関との交流は開校以来初めての試みであり、その意味でも、今回はとても有意義な経験だったと思います。

情報文化学科・准教授 佐々木 寛



# スポーツ大会を終えて

スポーツ大会実行委員長  
情報システム学科2年 高津安行

皆さん、スポーツ大会お疲れさまでした。今年度の大会は5月24日に行われました。大会実行委員会ではミニサッカー、バスケットボール、大縄跳びをメイン種目にし、フリースローをサブ種目にして開催しました。

今回のスポーツ大会で初めて実行委員長を務めさせていただきました。2年生ということもあり、至らない点も多く手探りの状態で準備を進め、運営にも不安が残る状態で当日を迎えてしまいましたが、晴天にも恵まれ、なんとか無事に終えることができました。

今振り返ると反省すべき点も多々あります。大会準備期間は何をすればいいの、何からすればいいのか

## 五月晴れ 心地よい汗 喫煙・ごみマナー大幅に改善



大縄跳び 何回跳べた？

が分からず、準備のスタートが遅れてしまい常に時間に押されていた。さらに当日は準備不足のせいで、バスケットゴールの数を勘違いしてしまい、スケジュールが大きく変わってしまい皆さん大変ご迷惑をおかけしました。

しかし反省すべき点だけではなく、喜ばしい点もあります。それは例年問題とされてきた喫煙やゴミの問題です。今年は昨年と比べてみると皆さん意識を改善したお陰で、そのような問題は完全に無くなったといえますが、格段に減ったのではないかと感じました。これは実行委員会から見ても大変喜ばしいことでもあります。

最後になりましたが、スポーツ大会を開催するにあたって一緒に盛り上げてくれた皆さま方に、あらためて御礼を申し上げます。

## 『遠い山なみの光』

カズオ・イシグロ著

ハヤカウェイ文庫

小野寺健訳

早川書房(2000年)

雰囲気を描ける書き手は、なかなかいない。もちろん、物語にとつて大切なのは、人物像と話の展開である。魅力的な人物を飽きのこない話の展開で書き込んでいく小説こそ、売れ筋に乗ること間違いない。けれども、周辺の風景が登場人物とともに醸し出す雰囲気もまた、良質な物語の条件だと思ふ。

カズオ・イシグロの描き出す世界は、この雰囲気にも魅力がある。回想が幾重にも織り込まれる独白と会話の双方には、彼の筆の力によって初めて可能であるかのような、独特の時刻

の用法がある。それによって、彼の描く、雰囲気にも浸る読者は、自らの帰るべき場所にあるような優しさや穏やかさに包まれていく。が、しかしその暖かな炎色の雰囲気の世界で、絶望的な悲劇の進行を直視させられる。終戦直後の長崎と女性と自殺、この三つの単語を並べれば、怒りの矛先の曖昧ならざるをえない情景を容易に想像できるかもしれない。

ただ、本書は英語で書かれ、英国で出版された。彼は英国の読者にどのような読みを願ったのだろうか、5歳で渡英し、以来日本語と別れ、英国で物語の書き手になっていった彼にとつて、日本はいつもそこにあるとともに、こちらとその間には分厚い強化曇り硝子が立てられているに違いない。なお、彼の作品の日本語訳の中では、おそらくこれが卓抜の出来だといえそうだ。

(情報システム学科・教授 白井陽一郎)

## お薦め Book

本学図書館のWEBサイトに個性あふれる教員たちの紹介文が載っています。アクセスしてみてください。  
(<http://www.nuis.ac.jp/c/library/book/book2005.htm>)

## 『数は科学の言葉』

トビアス・ダンツィク著

ジヨセフ・メイザール編

水谷淳訳

日経BP社(2007年)

本書は、春に出張した折に東京の書店で買求めたものですが、読み易くまた内容も大変に興味深いものでしたのでお薦めします。

最初に、本書を手にとって表紙の裏をめくると、アルバート・アインシュタインの推薦の言葉が載っており、「数学の発展を扱った本として、私がこれまで手にした中でも間違いなく最高に面白い本だ」と書かれています。

新

高校生はじめどなたでもご参加できます！

OPEN・CAMPUS 2007

## オープンキャンパス

2回目 9/30日  
10:00~15:30

学科及びカリキュラム説明  
入試情報説明  
入試問題の傾向と対策  
模擬講義

コンピュータ実習  
語学体験  
個別入試相談  
就職相談

海外留学相談  
学生との懇談  
学内見学



◎会場 本校みずき野キャンパス

参加お申し込み・お問い合わせ

新潟国際情報大学 広報係

〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1  
TEL.025-239-3111 FAX.025-239-3690  
E-mail [soudan@nuis.ac.jp](mailto:soudan@nuis.ac.jp)

新潟市西区みずき野3-1-1 TEL 025-239-3111 JR越後赤塚駅下車徒歩7分  
※変更となる場合もありますので、事前にご確認ください。

## NUIS-LIVE

大学ではどんなことを学ぶの？  
NUISの特色ある講義を体験しよう！

## 1日体験入学

日程／8月21日(火)  
時間／10:00~14:50

### 講義内容

- 国際研究概論 ●人間情報システム ●ワークショップで平和学
- CEP入門 ●ロシア史概説 ●アメリカ史概説
- 生産情報システム—バーチャル空間の創造—
- 経営組織論入門 ●情報システムを創ろう



フランスの植民地の歴史を研究するため、私が北アフリカのアルジェリアを初めて訪れたのは1980年4月のことでした。当時私は南仏のプロヴァンス大学に留学する貧乏学生で、旅費節約のため、地中海の港町マルセイユから船で首都アルジェに向かうことにしたのです。私が乗り込んだ船のエコノミークラスは、フランスに住むアルジェリア人移民労働者とその家族で込み合っていました。私のアルジェリアとの最初の出合いは、この移民労働者たちでした。

地中海を南下して1夜明け、青い地中海、晴れた空に白く光っているアルジェの風景

## 私の研究テーマ

私の研究テーマのつは、情報システムです。これは、企業やビジネスに深くかわるものですが、また企業やビジネスに直接触れる機会の少ない学生諸君や高校生の皆さんにはなじみがないもの、あるいは、興味はあるが全容が良く分からないものなのかも知れません。

預金者個人個人の銀行口座からの出し入れや残高を記憶するデータベースシステム、利子や手数料などを計算するプログラム、これらが動いているサーバまたはメインフレームと呼ばれる大規模なコンピュータシステム、ATMとコンピュータシステムをつなぐ通信システムなど、多くの要素から構成されています。また、情報システムは構想、

設計、作成、テストを経て運用に移され、さらに改善などが施されていきます。そして、世の中やビジネスの変化、新しい技術の登場などにより新しい情報システムが生まれ、

システムを導入する側の思いや狙いと利用可能な技術との整合をとる方法などが研究テーマとなり、作成段階では、効率がよく、バグ(誤り)のより少ないプログラミングの方法などが研究テーマになります。また、一つの情報システム構築プロジェクト全体において、いかに速く、正確に、費用を掛けずに行うにはどうすればよいのかという点も研究テーマとなります。

情報システムは、ますますそのITC(情報通信技術)の発展に伴い、社会に大きなインパクトを与える可能性のある分野です。

## フランス・アルジェリア関係史

情報文化学科・教授 小山田紀子

フランス人の入植を推し進めました。1950年代には約100万人のフランス人がアルジェリアに移り住んでいました。しかしアルジェリアの民族解放戦争と62年の独立を契機に入植者のほとんどがフランス

甲板には植民者だったフランス人旅行者が乗っており、この船には一つの民族の哀歓がこぼれに詰まっていた。あれから4半世紀がたち、今フランスでは移民の2世3世の問題が浮上していますが、

アルジェリアからのフランス人引き揚げ者の中には、移民排斥を唱える極右政党を支持する人も多いのです。一方アルジェリアは、独立後の経済政策の失敗から90年代にはイスラーム主義運動が高揚し、内戦の危機に見舞われました。フランス植民地の歴史は、地中海を挟んだ両国の現代の政治や経済・社会に暗い影を落としています。私はこのような両国の複雑に絡み合った植民地の歴史をひもとくときながら、またアルジェリア・フランス双方の研究者との交流を通じて、二つの国の現在と未来をこれからも見つけていきます。

## 広範な情報システム

情報システム学科・准教授 桑原 悟

古いものと置き換わるということを繰り返して進歩しています。

したがって、研究テーマは、非常に広い範囲に及びます。構想段階では、利用者情報

## 平成20年度 入学者選抜試験概要(要約一覧)

入試区分		募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格発表日 入学手続き期間
高校長推薦入試	高校長推薦 指定校制	情報文化学科 10 情報システム学科 20	19年11月1日(木)～ 11月6日(火)	19年11月11日(日)	新潟	本学が指定校と定めた高校長あてに推薦依頼を行います。	19年11月15日(木) 11月30日(金)
	高校長推薦 公募制	情報文化学科 30 情報システム学科 35				面接・小論文 学力推薦要件:全体の評定平均値3.8以上又はいずれか1教科の評定平均値が4.5以上であること。	
	高校長推薦 スポーツ	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文 対象科目については、募集要項で確認してください。	
	社会人入試	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文	
一般入試	前期	情報文化学科 35 情報システム学科 60	20年1月7日(月)～ 1月22日(火)	20年2月2日(土)	新潟 上越	・国語:国語総合(現代文)・現代文 ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	20年2月7日(木) 2月18日(月)
		情報文化学科 15 情報システム学科 20	20年1月30日(水)～ 2月14日(木)	20年1月19日(土)、20日(日) の大学入試センター試験を受験していること		学科試験を課さず、20年度の大学入試センター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点:各教科100点。 (3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用)	20年2月22日(金) 3月10日(月)
	後期	情報文化学科 10 情報システム学科 15	20年2月15日(金)～ 3月3日(月)	20年3月10日(月)	新潟	・国語:国語総合(現代文)・現代文 ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	20年3月13日(木) 3月24日(月)
	大学入試センター試験利用	情報文化学科 15 情報システム学科 20	20年1月30日(水)～ 2月14日(木)	20年1月19日(土)、20日(日) の大学入試センター試験を受験していること		学科試験を課さず、20年度の大学入試センター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点:各教科100点。 (3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用)	20年2月22日(金) 3月10日(月)
		情報文化学科 10 情報システム学科 15	20年2月15日(金)～ 3月3日(月)	20年3月10日(月)	新潟	・国語:国語総合(現代文)・現代文 ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	20年3月13日(木) 3月24日(月)

### 本学独自の 奨学金制度(給付)

- 学費特別給付奨学金(全学年対象) 授業料全額又は1/2
- 表彰奨学金(2～4年生対象) 10万円
- 海外派遣留学・海外研修奨学金(2年生対象) 15万円～23万円
- 資格取得奨励奨学金(全学年対象) I種5万円、II種2万円

- 学費臨時給付奨学金(全学年対象) 授業料・施設設備費の当該期分全額又は1/2
- 学費奨学融資制度奨学金(3・4年生対象) 借入利息相当額

◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。 TEL025-239-3111 E-mail gakumu@nuis.ac.jp



## 2007年度「映画のなかの市民社会」

「映画の中の市民社会」の今年のテーマは「政治における嘘」で、5、6月に3回にわたって課題映画3作品の上映とセミナーが展開されました。ゲスト講師には映像ジャーナリストの綿井健陽さんを迎え、中東の現実を話していただきました。1999年以来続いている本講座は、新潟市の映画館「シネ・ウインド」の協力で、市民社会のあり方について考える恒例行事となり、大勢の市民が参加しました。

綿井健陽氏は1997年から活動を始めたフリージャーナリストである。「アジアプレス・インターナショナル」に所属し、スリランカ民族紛争、スーダン飢饉、東ティモール・アチエ独立紛争、マルク諸島宗教抗争（インドネシア）、同時多発テロ後のアフガニスタンなどを取材してきた。2003年以降

### 映像ジャーナリスト・綿井健陽さん

## イラクの戦火 新たな対立

は空爆下のバグダッドから「ニュース・ステーション」、「ニュース23」などで映像報告・中継り

ポートをやってきた。「ボーン・上田記念国際記者賞」特別賞や「ギヤラクシー賞・報道活動部門」優秀賞などを授賞している。まず講演で綿井氏は、自身がつてから取材した映像がスクリーンに映された。それはスンニ派の人間が刑務所内部において拷問を受けたことを泣きながら訴えるものだった。「スンニ派とシーア派の対立なんて以前はなかった。ところが現在のイラクはシーア派によるスンニ派狩りの場だ」とイラク人が語っているように、「内戦」「報復合戦」とも称されるイラク人同士の新たな対立が生まれてきている状況

## 新たな対立

況を綿井氏は説明した。後半のディスカッションの時間にはイラク国内のバグダッド以外の都市の状況について、またイラク人の日本人に対する感情について、さらには綿井氏の取材方法への質問などが受講者から多く出され、綿井氏との間で活発な議論が展開された。

（情報文化学科・教授 越智敏夫）



吉澤文寿（情報文化学科・准教授）

・(2007)「戦後の日韓関係をどのように考えたらよいのか」板垣竜太・田中宏編『日韓新たな始まりのための20章』岩波書店（108-113：144頁）。

### 2) 学会・研究会報告

池田嘉郎（情報文化学科・講師）

・「大家族としてのモスクワ」シリーズ『伝説都市』構想報告会（東京大学出版会、2007年2月17日）。

近藤進（情報システム学科・教授）

・「情報インフラと災害に対する情報通信への課題」信越情報通信懇談会新世代情報通信網委員会2006年度委託研究報告（メルパルク長野、2007年5月24日）。

長坂格（情報文化学科・准教授）

・「フリピン低地社会における家族と宗教実践：イロコス農村の事例」比較家族史学会第49回研究大会（神戸大学、2007年6月16日）。

### 3) その他

池田嘉郎（情報文化学科・講師）

・スラブ研究センターセミナー（北海道大学スラブ研究センター、2007年4月18日）  
Ian Thatcher氏の報告「The Mystery of the Mezhrainka」に対するコメントター。

越智敏夫（情報文化学科・教授）

・記念講演「市民社会における選挙の意味」選挙管理委員会関東甲信越支部会（長岡市蓬平温泉「和泉屋」、2007年1月15日）。  
・意見陳述 衆議院「日本国憲法に関する調査特別委員会」地方公聴会（ホテル日航新潟、2007年3月28日）。

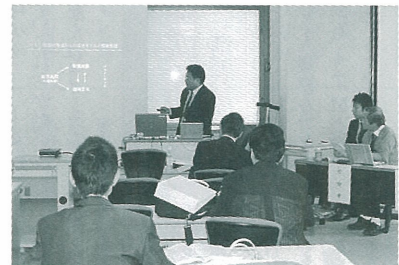
小山田紀子（情報文化学科・教授）

・(2007) 科学研究費補助金（基盤B）研究成果報告書（仮題番号6320101）『「植民地責任」

「日本情報経営学会 第54回全国大会」が6月23、24日の2日間、本学新潟中央キャンパスを会場に開催されました。本学会は、今年4月1日に学会名称を「オフィスオートメーション学会」から「日本情報経営学会」へと改名し、本大会は新学会発足後としては初めての記念すべき全国大会となりました。

## 「日本情報経営学会」全国大会開く

情報システム学科・講師 佐々木桐子



て大江和彦氏（東京大学医学部教授）による「医療の情報化と医療改革」

特別講演として中井徳太郎氏（金融庁室長）による「地域金融の再生」とい

## 多彩に44件の研究発表

のち輝くまちづくり」、基調講演として寺本義也氏（早稲田大学大学院教授）による「情報経営の新时代ーグローバル・ネットワーク社会におけるマネジメントの課題」が行われました。また24日の午後には、「一皮剥けた新潟になるために」というテーマのもと福島正義氏（INEX-Equidene Systems, Inc.）、足立興治氏（野村総合研究所上席コンサルタント）、高橋肇氏（亀田製菓株式会社 お米科学研究室 歯学博士/新潟大学MOT）、高戸祥子氏（HWC（株））の4氏のパネリストと、

## 本学のビジネスゲーム・シミュレーション報告

渡辺昇氏（早稲田大学経営品質研究所）の司会・コーディネートによる活発な議論が行われました。本学からは佐々木桐子（情報システム学科講師）が「新潟国際情報大学におけるビジネスゲーム・シミュレーション演習事例」というテーマで、本学情報システム学科の「専門演習」で行われている取り組みを報告いたしました。今回の学会は、新潟大学と本学が共に主催校として運営にあたり、大会2日間で全国の大学関係者や企業から192名のご参加をいただきました。

論からみる脱植民地化の比較歴史的研究（代表：永原陽子 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）第V章 脱植民地化の諸相と「植民地責任」V-1. 「アルジェリアの独立と引揚者の歴史—脱植民地化とフランス・アルジェリア関係—」（267-279頁）。  
・(2007)「アルジェリアの独立と引揚者の歴史—脱植民地化とフランス・アルジェリア関係—」東京外国語大学『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』第119号（60-63頁）。  
・イスラーム地域研究プロジェクト、講演会DAHO Djerbal（アルジェ大学文学部教授）「The Struggle for Algerian National Liberation and Islam」のコメント「コメント：イスラーム改革派運動・ウラマー協会について（英語）」（上智大学、2007年2月24日）。

小宮山智志（情報システム学科・准教授）

・新潟市西区自治協議会委員

佐々木寛（情報文化学科・准教授）

・司会「平和学には何ができるか（ラウンドテーブル）」日本平和学会2007年度春季研究大会（早稲田大学、2007年6月9日）。  
・講演「共に生きる人権—21世紀の人権思想」共に生きる人権講座（坂井輪地区公民館、2007年3月6日）。  
・特別講義「グローバル化時代の＜暴力＞を越えて」（新潟青陵大学、2007年6月15日）。  
・(2007)「有事体制と＜自治＞の解体—新潟の「国民保護」計画問題に取り組む中で」『インパクション』第156号（110-112頁）。

武藤輝一（学長）

・【鼎談】武藤輝一、出月康夫、武藤徹一郎 第107回日本外科学会定期学術集会（大阪国際会議場、2007年4月12日）。

吉澤文寿（情報文化学科・准教授）

・講演「日朝国交正常化交渉の現状と展望」市民大学講座（加茂市民会館、2007年6月18日）。  
・(2007)「日韓を結ぶ市民交流—教科書問題と戦後補償問題に見る—」『学術フロンティア報告書 2006年度』東洋大学アジア地域研究センター（247-249頁）。



# 「政治における嘘」をテーマに3作品を上映

## 『約束の旅路』

この映画は、エチオピアからスーダンの難民キャンプに、ある母親とその息子の9歳の少年がたどり着いた。2人はキリスト教徒のエチオピア人だったが、母親はエチオピアのユダヤ人だけがイスラエルに脱出できることを知り、生き延びるためユダヤ人と偽ってイスラエルに脱出するよう、息子に命じた。こうして少年はイスラエルに降り立つ。母と別れ故郷を遠く離れて、真実の名前を隠してシユロモと名づけられ、新しい大地イスラエルで、少年は愛情豊かな養父母に引き取ら

れる。彼らは左派を支持するリベラルな夫婦であった。黒人少年シユロモへの学校でのひどい差別や、新しい移民にして「改宗」を強いるラビ庁の横暴に、養父母はシユロモを守った。やがて思春期を迎えたシユロモは、白人系ユダヤ人、サラに恋をする。しかし、敬虔なユダヤ教徒のサラの父親は黒人のシユロモと娘との交際を禁じる。さまざまな苦悩を抱え、シユロモは医者を目指し、パリに行く。10年後医師になりイスラエルに戻るが、エチオピア系ユダヤ人への差別に対し、彼は自分の祖国がイスラエルであることを証明したいという思いに駆られ、イスラエル軍に入隊して戦闘に加

## 揺らぐユダヤ人国家 普遍的な愛

わる。しかし負傷して家族のもとに帰り、ようやくサラと結婚する。サラとの間に子供ができた時、シユロモは医師として、実の母を捜しにアフリカの難民キャンプへと旅立つ。さて、この映画はイスラエルと

## 『パラダイス・ナウ』

2001年9月11日の「同時多発テロ事件」（または9・11事件）を大きな境として、米国（およびその「同盟国」）は「対テロ戦争」（War on Terror）に従事するようになり、それ以前の「戦争」のように、国家を相手としてではなくテロリスト・ネットワークを相手に戦争を遂行するに至った。そして、米国によれば、この戦争は現在も「終戦」に至っていない。

## 「終戦」なき対テロ戦争

ところで、テロリズムに対する国際（法）的な取り

組みの歴史は意外と古く、第1次世界大戦後にさかのぼる。そこにおいては、テロリズムを明確に犯罪行為として国家がその訴追と処罰の責任を負うという、いわば刑

ある。彼らの中には奇烈ともいえる尋問を受けている者が存在する。その所在地が米国の領域外であり、かつ、米国民でないということによつて、彼らには米国の法の保護も容易には及びにくい。こうして、いわば法による保護の隙間に置かれた彼らの状況につい



講師 新潟情報文化学研究所 小山田 紀子 氏

別・対立などさまざまな問題を抱え込んでいる。そして今後イスラエル国家をどのような国にしてい

情報文化学科・教授 小山田 紀子



講師 新潟情報文化学研究所 熊谷 卓 氏

いうテロリストの常套手段を、「対テロ戦争」に従事する国家の側が採用し始めたのであろうか。そうであれば、同戦争に国家の側が最終的に勝利することはきわめて困難である。

情報文化学科・准教授 熊谷 卓

## 教員の活動（2007年上半期・本人申告による）

### 1) 研究論文・図書

安藤潤（情報文化学科・准教授）

- ・(2007)「第7章 米国における家計の『過剰消費』に関する一考察—財政政策、消費者金融及びITバブルの影響を中心に—」諏訪貞夫編著『日本経済の進歩と将来』成文堂（150-164：314頁）。

臼井陽一郎（情報文化学科・教授）

- ・"An Evolving Path of Regionalism: The Construction of Environmental Acquis in Comparative Perspective between the EEC and ASEAN," Tamio Nakamura (ed.), *The Dynamics of East Asian Regionalism in Comparative Perspective*. Comparative Regionalism Project No.2 / ISS Joint Research Project No.17. Feb. 2007 (pp.31-66).

區建英（情報文化学科・教授）

- ・(2007)「厳復とモンテスキュー：『仁政』の転回と政治的自由」『専修大学歴史学センター年報・フランス革命と日本・アジアの近代化』第4号（82-99頁）。

越智敏夫（情報文化学科・教授）

- ・(2007)「アメリカ国家思想の文化的側面：その政府不信と体制信仰について」『政治思想研究』第7号（32-56）。
- ・(2007)「市民文化論の統合的機能—現代政治理論の『自己正当化』について」市川太一・梅垣理郎・柴田平三郎・中道寿一編『現場としての政治学』日本経済評論社（89-112：337頁）。

岸野清孝（情報システム学科・教授）

- ・(2007)『流通と物流 基礎から戦略・高度情報化まで』静岡学術出版（全230頁）。

小林元裕（情報文化学科・准教授）

- ・共著（2007）『蒙疆の日本人居民』内田知行・柴田善雅編『日本の蒙疆占領』研文出版（197-

234：377頁）。

- ・共著（2007）『中国国民政府および国民党と蒙疆政権』同書（303-341：377頁）。

佐々木寛（情報文化学科・准教授）

- ・共著（2007）『「平和」と「コミュニティ」—グローバル化時代の『暴力』を越えて—宮島喬編『平和とコミュニティ』明石書店（1-15）。
- ・(2007) "Approaches to the Contemporary Concept of the 'Security': Towards a New Security Study," *The Journal of Pacific Asia*, Vol.13 (pp.9-31) .

澤口晋一（情報文化学科・教授）

- ・(2007)「北上川上流域における周氷河インボリュションの形成年代」『季刊地理学』58巻4号（228-236頁）。
- ・(2007)「奥西河内本沢源頭部（南アルプス）の大型ソリフラクションロープ」増沢武弘編『南アルプスの自然』静岡県（272-278：368頁）。

高橋正樹（情報文化学科・教授）

- ・(2007)「グローバリゼーションとタイ政治の混沌—タクシン政権の誕生と崩壊をめぐって—」東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター編『アジアの経済発展と伝統文化の変容』東洋大学アジア文化研究所（21-48：208頁）。

長坂格（情報文化学科・准教授）

- ・(2007)「フランスにおけるフィリピン人移住労働者のエスニシティ」佐々木衛編『越境する移動とコミュニティの再構築』東方書店（201-216：270頁）。

藤瀬武彦（情報システム学科・教授）

- ・(2007)「筋力をつくるトレーニング」長澤純一編著『体力とはなにか—運動処方その前に—』NAP（190-206：237頁）。

矢口裕子（情報文化学科・准教授）

- ・(2007) "A Spy in the House of Sexuality: Rereading Anais Nin through *Henry & June*," *A Cafe in Space: Anais Nin Literary Journal*. Vol. 4. Sky Blue Press (pp. 23-34).



# 卒業生の便り

私は東京に就職して4年あまり、「システム屋」として働いています。今までに金融業の基幹システム、レストランチェーンのPOSシステム、コンビニエンスストアの店舗システム等々の開発に携わりました。

プロジェクト毎にお客さまの会社の方と一緒に協力し合っているシステムを作り、完成したら新たなお客さまのプロジェクトに取り組み。こういう仕事のスタイルから、建設業になぞらえてでしょうか、「デジドカ」などという言葉もありますが、日焼けはしません。

そして、大きく違うのは、プロジェクト毎に自分の役割が変わるので、いろいろ経験でき、蓄積ができることでしょうか。建設業では、仕事をおして水道屋さんや電気設計もできるように、と

いうようなことはないと思います。4年生は就職が決まって期待と不安が入り混じっているところでしょうか。3年生は少しずつ意識し始めるころかと思えます。自分が「本当にしたいこと」って何だろうと悩んだら、「ちょっとでも好きなこと」をやればよいのです。あるいは絶対にしたくないことを避けた職種を探してやればよいと思います。「本当に」とかの重い言葉はちょっと隅っこに置いておけばよいのです。

## 「デジドカ」のシステム屋です

### 自分の役割しっかり認識



大切なことは自分の手でちゃんと取ること、それを真剣に愛することです。ちゃんと愛してからならば、たとえ別れがきてもよいと思います。たくさんさんの歯車の一つとなつて大きなことを成し遂げてもよいですし、大きな歯車となつて中々らしいことをするのも素晴らしいでしょう。「歯車」に否定的なイメージをもっている人もいますが、社会で暮らしている以上、学生であっても既に社会の一員です。私もまだ若輩ですが、30歳までの仕事に対する基本方針としては、安野モヨコ著「働きマン」第1巻第1話など、参考になると思っています。ご一読をお薦めします。

## 情報システム学科2002年度卒業 堀川 潤

### 「みずき会」10周年 記念総会開く

#### シンボルマークを決定

#### 10年後の自分にメッセージ封印

ていました。

10周年を記念して正午から記念講演会が開かれ、ゲスト講師に一昨年春に勇退された原口武彦先生を迎えました。

#### 赤塚の原点に戻って

1期生が卒業と同時に「みずき会」(新潟国際情報大学同窓会)を発足して10年がたち、会員数も2935人となりました。

10周年イベントの母校開催については、ある同窓の一人から「昔みたいに純粋に赤塚でお祭り騒ぎしたいよね!」

ました。また本学の根本公一学部長も講演を行いました。

午後は会場を学生食堂「弥彦」に移し、懐かしい場所で懇親会が行われました。武藤学長が祝辞、吹奏楽部による校歌演奏が行われました。また10周年記念イベントとして募集したシンボルマークを決定、タイムカプセルに10年後の自分のメッセージが封印されました。

#### 「みずき会」会長 高橋 毅

と言われたのが事の発端でした。原点に戻るとい言葉の響きの通り、学校に来るのが当たり前だったあの頃を思い出し「学生時代に限り一日限りの学生気分を味わう」というコンセプトを掲げ、古き良き思い出を社会での明日の活力にすべく、10周年といういわ



懇親会場で(吹奏楽演奏)

ば「みずき会」の第1チェックポイントを、参加者全員で無事通過できたことが今後のみずき会並びに母校の発展につながっていくものと確信しております。手探りで始めた「みずき会」も、10周年という時を経て、大学の成長と共に着々と成長し続けているのは確かです。今後も地盤をしっかりと固めつつ、NUISS魂・NUISS愛をもって活動の幅を広げていけるよう努力していきたいと思ひます。

## 湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 越智 敏夫

現在、世界規模の美術市場で最も高価格の日本人アーティストといえは、村上隆、奈良美智、会田誠あたりだろう。しかし彼らの作品は国内の美術館にはほとんど収蔵されていない。奈良の作品が出身地の青森県立美術館にあるくらいだ。日本の美術館あたりでは手が出せないほど高価になっているためもあるが、より根本的な理由は美術市場、あるいは美術そのもののあり方にかかわっている。ちなみに新潟の人は会田誠が新潟市出身で、本学で社会学を学んでいた方の御子息だということも知らないかもしれない。

しかし、こうした逆転は美術界のことだけではない。例えば日本思想を研究するためにアメリカに行くとハーバート・ウーテンやキャロル・グラック、ノーマ・フィールドに教わりたいと考える日本人大学院生は確実に存在する。理由としては良好な研究環境や就職の有利さも挙げられるが、それ以外に方法論に関する議論の豊かさも大きいのではない。アメリカにおける日本研究は「日本人ではない他者の視線」を研究方法の前提とする。つまり何も分かった気にはなっていない。だからこそ方法論に神経を注ぐ。そしてその方法論は他の問題領域を語る際にも有効である。

ところが日本人はこれまで日本文化を非常に無神経に語ってきた。最悪の場合には「日本的なもの」は日本人にのみ理解しうるという無根拠な妄想によつて「他者」の価値さえおとしめてきたほどである。「俳句の良さは外人には分かるまい」と公言する日本人は今でも多そうだが。しかしこうした意見を持つことは単なる自民族中心主義という政治の実践であつて、およそ学術や研究の名に値するものではない。

村上らの絵画の価格にしても、日本的なもの(花鳥風月!)に拘泥している日本国内の画家たちの卑小な自尊心を軽々と笑ひしはして作品を作った結果である。金になれば何でも良いわけではない。しかし「分ける人間には分ける」的な自閉的自己満足は何も生産しない。赤の他人と議論し価値を共有することこそ「国際的情報」の価値はある。